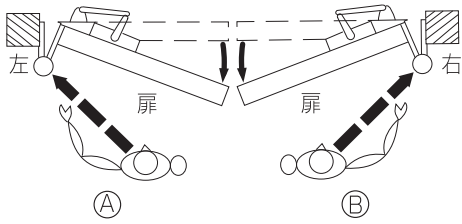


説明書は、右開き勝手扉について図示してありますので、左開き勝手扉の場合は、本図と左右対称の位置となるように取り付けてください。

### 1 左右勝手の確認

必ず吊元（丁番軸）の見える側または、扉を引いて開ける側に立ったときに吊元が



左に見えるものを 右に見えるものを  
左開き勝手扉 右開き勝手扉

- 本体および付属部品には、左右の勝手がありませんが、扉の開き勝手によって、取り付ける向き、取付ネジの位置が異なります。
- 左図の開き勝手区分ⒶまたはⒷによって、正しい向きに取り付けてください。

### 2 本体ブラケットの取り付け

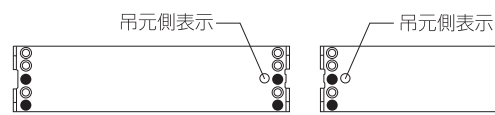
- 新規の扉にも使用出来ます。その際は、添付の型紙にて、位置を決め、1)の日本ドアチェック製造(株)用取付穴をご使用ください。

本体ブラケットの○印を吊元側に向けて扉面に取付ネジ（4本）にて取り付けてください。

**注** 取付ネジは、強く締め付けてください。ゆるいと本体がぐらつき正常な機能を果たさなくなります。

- 日本ドアチェック製造(株)の80シリーズから交換する場合はHBP-93型ブラケットの下側の4つの取付穴(水平方向のピッチ208㎜)を使ってください。

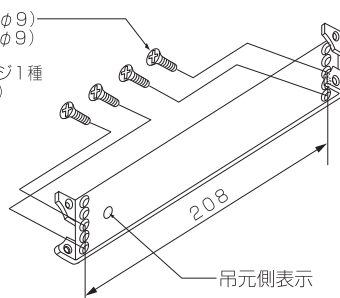
- 新規の扉にも取り付けられます



左勝手の場合

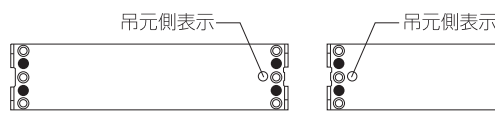


右勝手の場合

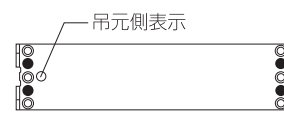


M5×12皿小ネジ(D=φ9)  
M6×12皿小ネジ(D=φ9)  
φ4.8×25皿木ネジ  
φ6×25皿タッピンネジ1種  
(D=φ9)

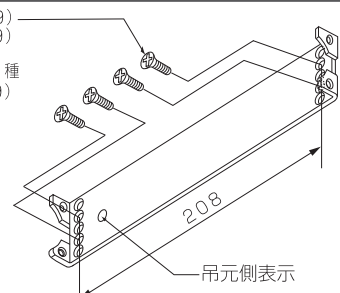
- リョービ(株)の60シリーズから交換する場合はHBP-93型ブラケットの上側の4つの取付穴(水平方向のピッチ208㎜)を使ってください。



左勝手の場合

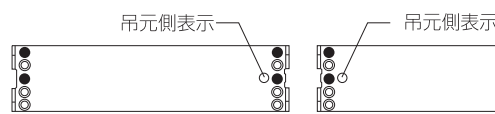


右勝手の場合

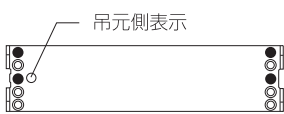


M5×12皿小ネジ(D=φ9)  
M6×12皿小ネジ(D=φ9)  
φ4.8×25皿木ネジ  
φ6×25皿タッピンネジ1種  
(D=φ9)

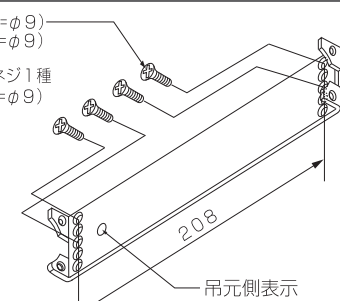
- ダイハツディーゼルNHN(株)の50シリーズから交換する場合は、HBP-93型ブラケットの上側の4つの取付穴(水平方向のピッチ208㎜)を使ってください。



左勝手の場合



右勝手の場合



M5×12皿小ネジ(D=φ9)  
M6×12皿小ネジ(D=φ9)  
φ4.8×25皿木ネジ  
φ6×25皿タッピンネジ1種  
(D=φ9)

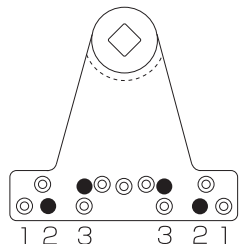
### 3 アームブラケットの取り付け

- 新規の枠にも使用出来ます。その際は、添付の型紙にて、位置を決め、1)の日本ドアチェック製造(株)用取付穴をご使用ください。

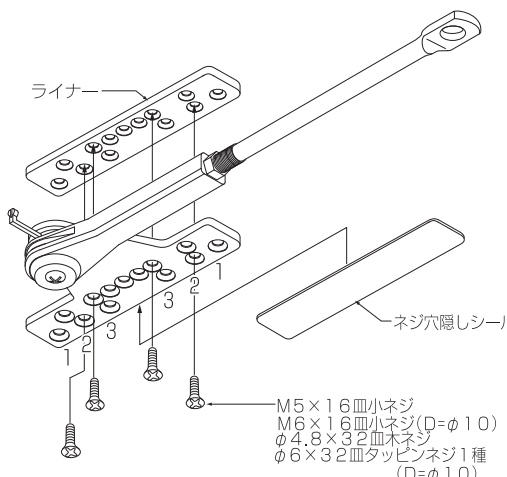
上枠との間にライナーを挿入しアームブラケットを上枠に取付ネジにて取り付けてください。

**注** 取付ネジは、強く締め付けてください。ゆるいとアームがぐらつき正常な機能を果たさなくなります。

- 日本ドアチェック製造(株)の80シリーズから交換する場合は上枠との間にライナーを挿入してください。アームブラケットの2番の取付穴を使って、取付ネジ4本で取り付けてください。  
※最後にネジ穴隠しシールをアームブラケットの上へ貼付してください。
- 新規の枠にも取り付けられます。

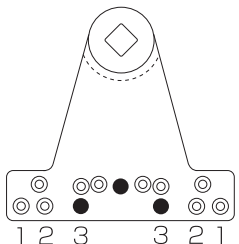


左勝手の場合

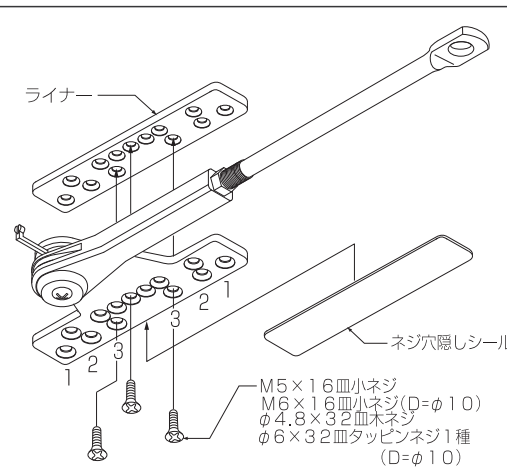


M5×16皿小ネジ  
M6×16皿小ネジ(D=φ10)  
φ4.8×32皿木ネジ  
φ6×32皿タッピンネジ1種  
(D=φ10)

- リョービ(株)の60シリーズから交換する場合は上枠との間にライナーを挿入してください。アームブラケットの3番の取付穴を使って、取付ネジ3本で取り付けてください。  
※最後にネジ穴隠しシールをアームブラケットの上へ貼付してください。

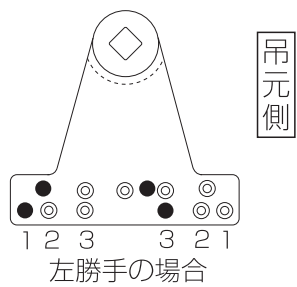


左勝手の場合

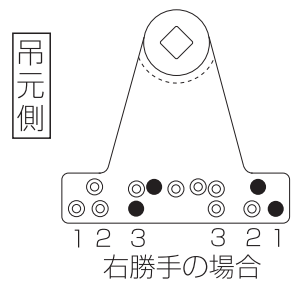


M5×16皿小ネジ  
M6×16皿小ネジ(D=φ10)  
φ4.8×32皿木ネジ  
φ6×32皿タッピンネジ1種  
(D=φ10)

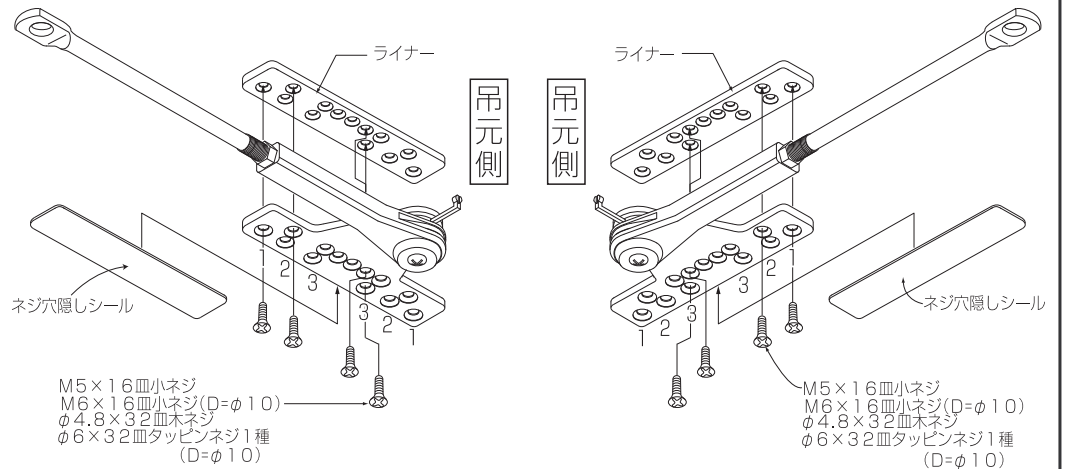
- ダイハツディーゼルNHN(株)の50シリーズから交換する場合は、上枠との間にライナーを挿入してください。左右勝手により使用するアームブラケットの取付穴が異なります。吊元側の3番の取付穴と戸先側の1番の取付穴を使って、取付ネジ4本で取り付けてください。  
※最後にネジ穴隠しシールをアームブラケットの上へ貼付してください。



左勝手の場合



右勝手の場合

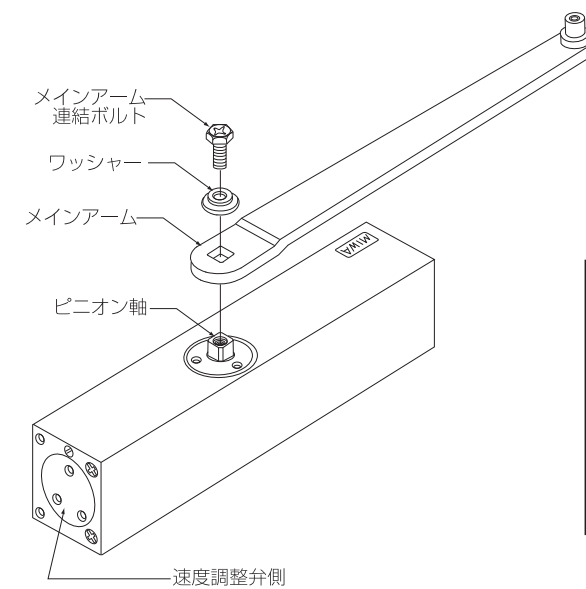


M5×16皿小ネジ  
M6×16皿小ネジ(D=φ10)  
φ4.8×32皿木ネジ  
φ6×32皿タッピンネジ1種  
(D=φ10)

M5×16皿小ネジ  
M6×16皿小ネジ(D=φ10)  
φ4.8×32皿木ネジ  
φ6×32皿タッピンネジ1種  
(D=φ10)

### 4 メインアームの取り付け

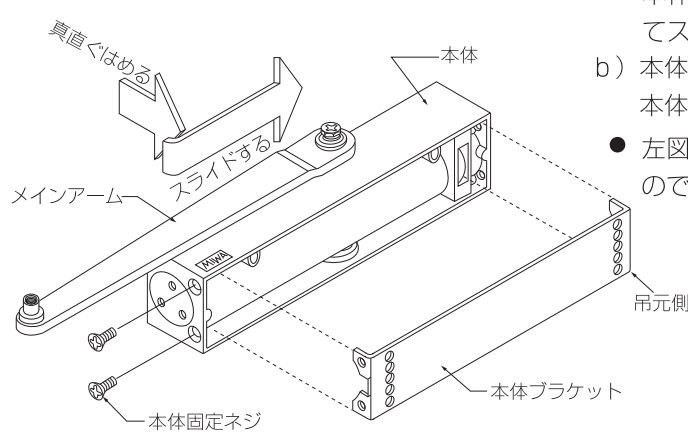
- 本体の向きは速度調整弁を吊元側に向けてください。
- メインアームは必ず吊元の反対側に伸びるように取り付けてください。
- メインアームをピニオン軸にワッシャーおよびメインアーム連結ボルトにてしっかり締め付けてください。



**注** メインアームがピニオン軸に入りにくいときは、ピニオン軸にメインアームの角穴をあてがい、連結ボルトにてねじ込んでください。ハンマー等でメインアームをたたいて入れるとピニオン軸受部を破損し、油もれを起こし正常に機能しなくなります。

### 5 クローザ本体の取り付け

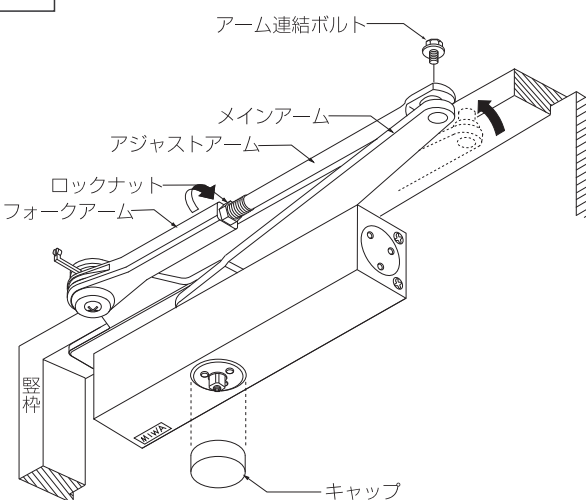
- 本体を本体ブラケットにはめ合せて、本体を吊元側に向かって扉面にそってスライドさせてください。
  - 本体固定ネジ（2本）にて本体を本体ブラケットに固定してください。
- 左図は本体の裏面から見ておきますので向きにご注意ください。



### 6 アームの連結

- アジャストアームとメインアームを仮連結してください。ダイハツディーゼルNHN(株)の50シリーズから交換する場合は、アジャストアームを8回転させて、フォークアームの長さを伸ばしてください。

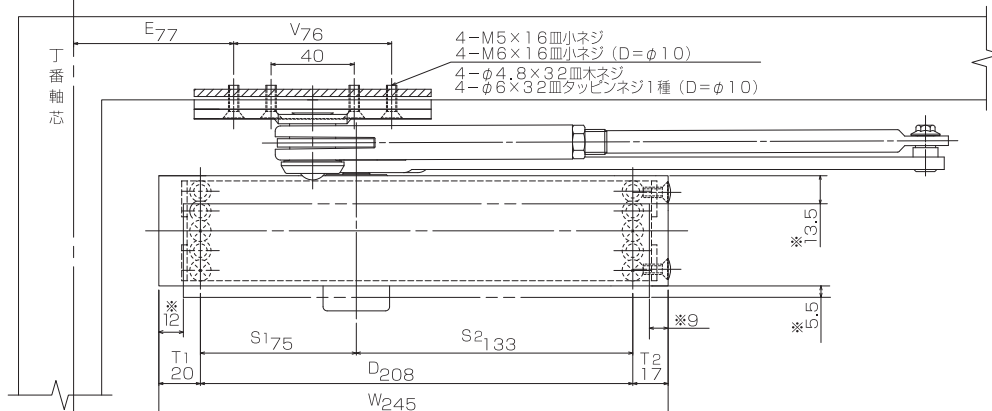
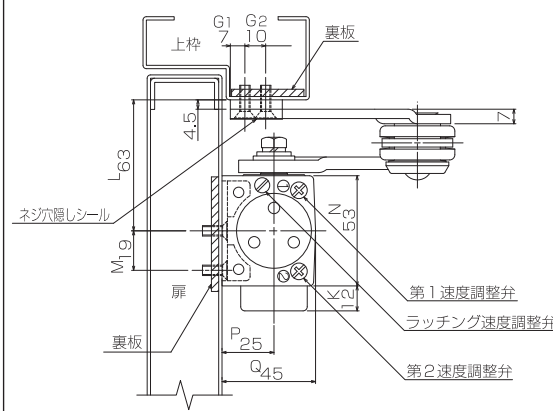
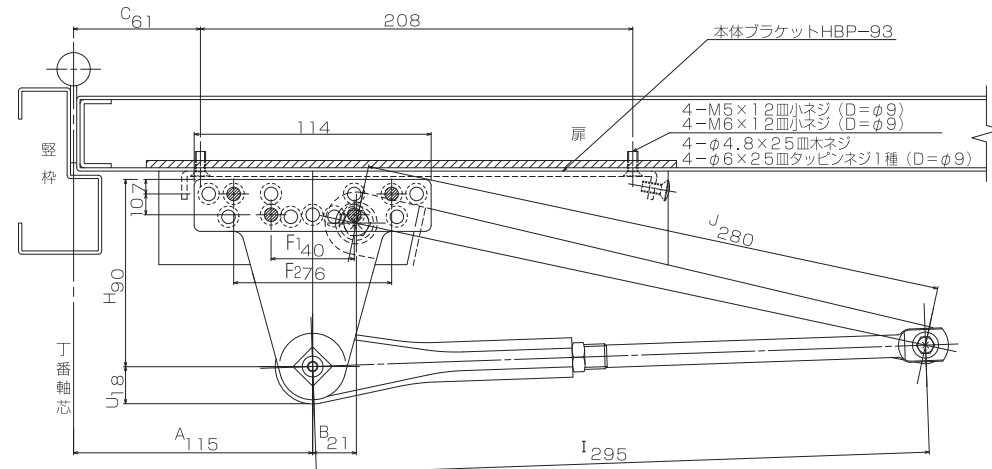
**注** フォークアームの長さ調整後ロックナットはしっかり締め付けてください。



- アーム連結ボルトをしっかり締め付けてください。
- キャップは下からパチッとはめてください。

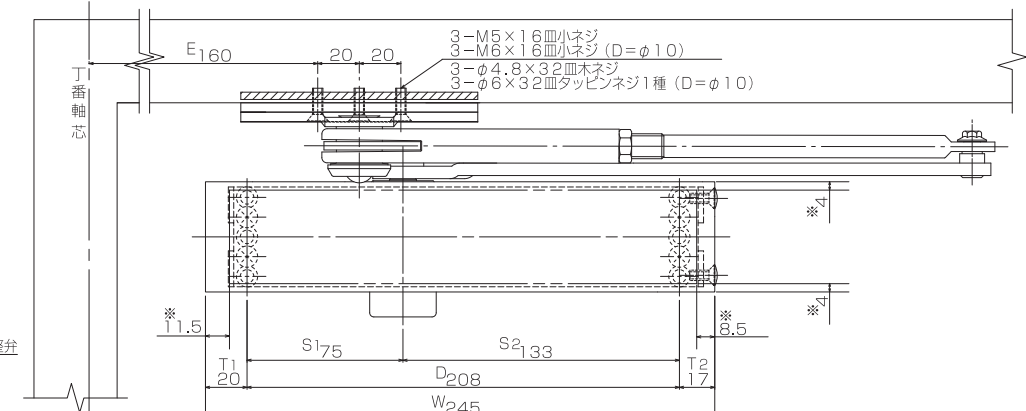
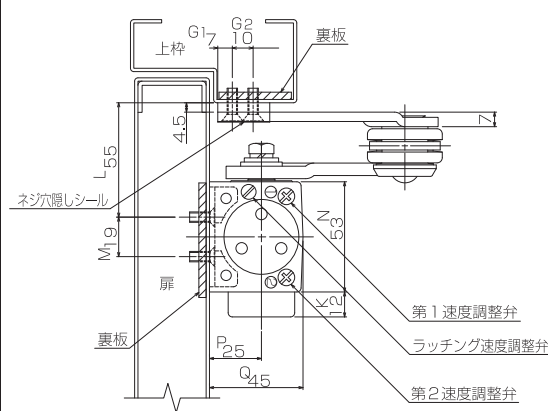
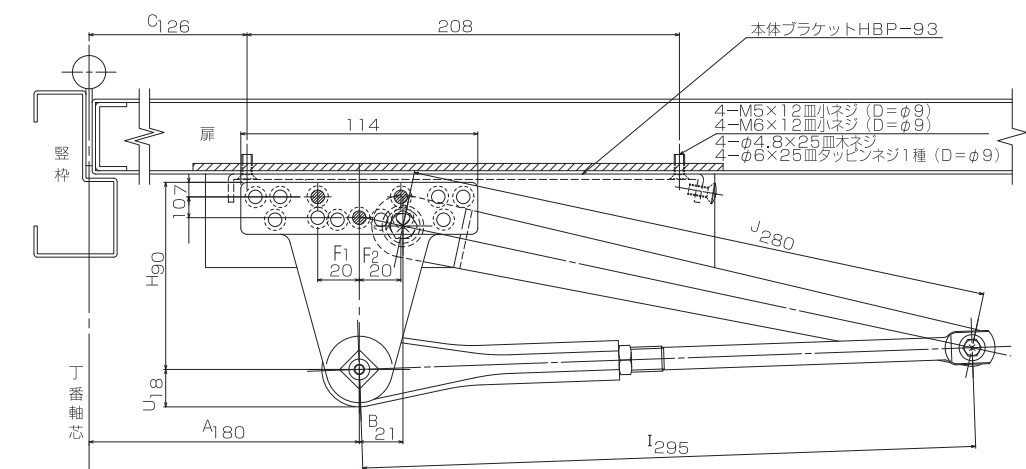
M613PS-LS 切込外観図 本図は、日本ドアチェック製造(株)80シリーズ切込への取付を示す。

- アルファベット記号は、電話等でお問合せのとき、呼称してください。
- ※ は、日本ドアチェック製造(株)80シリーズの本体位置寸法を示す。



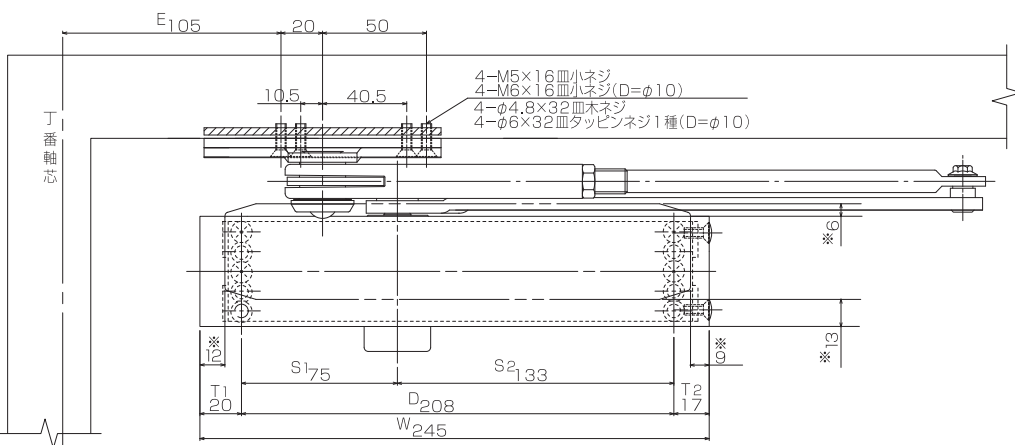
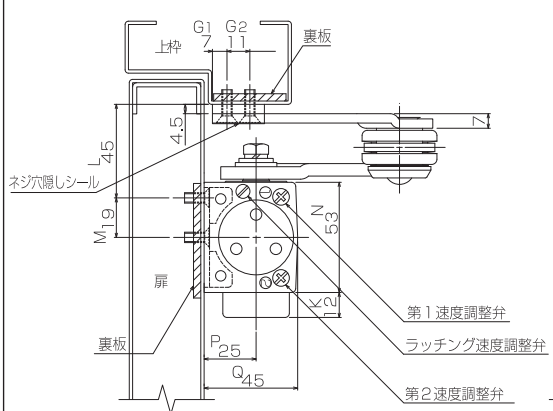
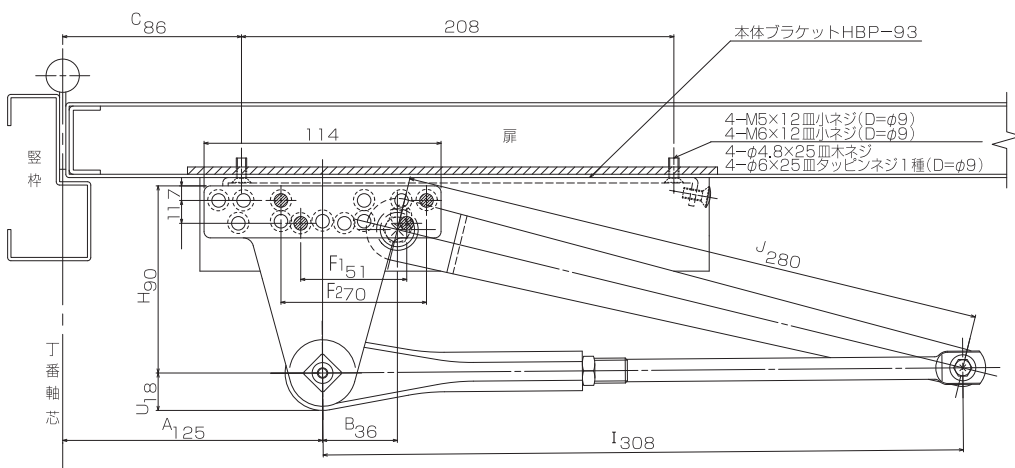
M613PS-LS 切込外観図 本図は、リョービ(株)60シリーズ切込への取付を示す。

- アルファベット記号は、電話等でお問合せのとき、呼称してください。
- ※ は、リョービ(株)60シリーズの本体位置寸法を示す。



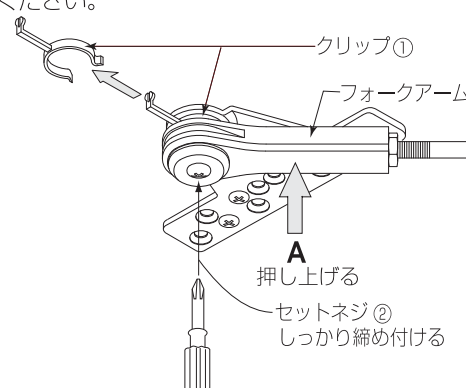
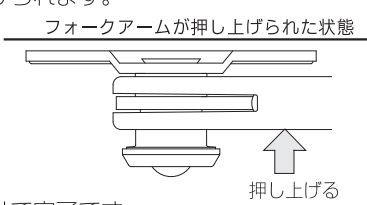
M613PS-LS 切込外観図 本図は、ダイハツディーゼルNHN(株)50シリーズ切込への取付を示す。

- アルファベット記号は、電話等でお問合せのとき、呼称してください。
- ※ は、ダイハツディーゼルNHN(株)50シリーズの本体位置寸法を示す。



7 ストップ角度の決め方 (ストップ装置付の場合)

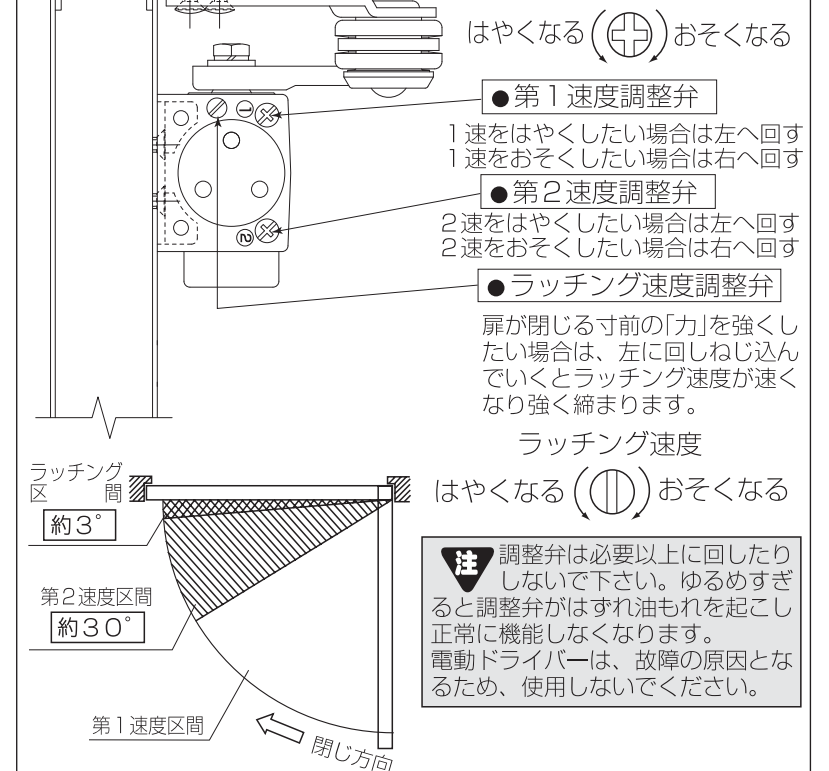
- クリップ①を引き抜いてから、扉をストップさせたい角度まで開いてください。
- その扉を開いた位置で、フォークアームのA部分を押し上げてください。抜いたクリップ①の幅の分フォークアームがはまり込みます。このとき、扉をその位置で、前後に5° ぐらい振りながらフォークアームを押し上げると、楽に押し上げられます。
- 右図のようにフォークアームが押し上げられていることを確認してください。フォークアームが押し上げられていないままセットネジ②を締めると故障の原因となります。
- セットネジ②をしっかりと締め付けて完了です。
  - ※ 1. ストップ角度 80° 90° 100° 115° 125° 140° 160° 175°
  - ※ 2. なお、再度ストップ角度を変える場合は、
    - 扉を開きストップさせておいてください
    - セットネジ②をいっぱいにゆるめてください。
    - フォークアームA部分を、いっぱい引き下げるとストップ装置は解除されます。
    - その後は、ストップ角度の決め方の手順 a, b, c, d によって決めてください。
  - ※ 3. セットネジ②は、外れにくくしてありますので、いっぱいゆるむとかたくなりますが、必要以上に無理にゆるめないでください。



8 速度調整の方法

このドアクローザは工場出荷段階で速度調整がされていますので、通常は調整が不要です。もし調整が必要な場合は、次の要領で行ってください。

- 調整弁は3つあります。1速弁と2速弁で全体の閉じる速度を調整します。下図のように、調整弁を左に回せば閉扉スピードははやく逆に右に回せばおそくなります。



**注** 調整弁は必要以上に回したりしないで下さい。ゆるめすぎると調整弁がはずれ油洩れを起こし正常に機能しなくなります。電動ドライバーは、故障の原因となるため、使用しないでください。